

第 15 回放射能クロスチェック（固体試料）実施要領

（一社）日本環境測定分析協会
放射能測定分析技術研究会

1.試験番号 RADI2026-01

2.試験名 固体試料の放射能濃度

3.試験項目及び濃度範囲

試験にあたっては、下記の濃度を参考にしてください。

試験項目※	濃度範囲	備考
^{137}Cs	^{137}Cs : 10~200 Bq/kg	500mL ポリ瓶入り 2 本

※NaI(Tl)シンチレーションスペクトルメータ検出器の場合は ^{134}Cs と ^{137}Cs の合量で報告。

4.試料の調製法

飛灰溶出液をろ過後、放射性セシウムをゼオライトに吸着させた。

5.試料の配布

^{137}Cs を含む試料 2 濃度

宅配便で送付します。

6.試料の保存

放射線量は低いため、特別な管理をする必要はありません。

試料の廃棄ができない場合は、事務局へ送料元払いで送付してください（追跡可能な送付手段を用いてください。なお着払いとされた場合は対応いたしかねますのでご了承ください）。

7.分析方法

試料は、500mL ポリ瓶で送付しますので、各自測定容器に詰め測定してください。

測定は、ゲルマニウム半導体検出器、または NaI(Tl)シンチレーションスペクトルメータを用いて、 ^{137}Cs の放射能濃度、NaI(Tl)シンチレーションスペクトルメータでは合計 ($^{134}\text{Cs}+^{137}\text{Cs}$) の放射能濃度を Bq/kg(wet)（含水率補正不要）として測定してください。

試験方法は、ゲルマニウム半導体検出器については、原子力規制庁の放射能測定法シリーズ 7「ゲルマニウム半導体検出器によるγ線スペクトロメトリー」令和 2 年改訂、NaI(Tl)シンチレーションスペクトルメータについては、文部科学省の放射能測定法シリーズ 6「NaI(Tl)シンチレーションスペクトルメータ機器分析法」昭和 49 年に準拠とする。

これ以外の分析方法を用いた場合は、分析方法を記載してください。

8.結果の報告

測定結果は、報告様式（Excel）を用い、報告様式中の記載要領（別紙 3）に従いご記入の上、Excel 形式のままメール添付にて様式に記載のアドレス宛に送信してください。

9.報告期限

2026 年 9 月 25 日(金)（厳守してください）。

10.その他

結果の概要については、学会等において発表させていただくことがありますのでご了承ください。その場合、個別の機関名等が特定されないよう配慮します。